

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 23 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370909

研究課題名(和文) オランダの農村地域における外国人労働力に関する研究

研究課題名(英文) Foreign Workforce in Agriculture Sector: A Case of Limburg, the Netherlands

研究代表者

大島 規江 (OSHIMA, NORIE)

茨城大学・教育学部・准教授

研究者番号：90420661

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)： ホワイト・アスパラガスの収穫はオランダに居を有するガーナ人、エチオピア人などを雇用していたが、20年ほど前の1995年ころから徐々に外国人労働者を季節労働者として受け入れ始めた。現在では聞き取り調査を行った15戸のホワイト・アスパラガス生産農家・農業法人すべてが、外国人労働者を雇用している。外国人労働者の出身国は、ギリシャ、ポーランド、ラトビア、ルーマニア、ブルガリア、ポルトガルなど実に多様である。概ね、ギリシャが古参の季節労働者であることに加え、ルーマニアとブルガリアが新勢力であること以外に顕著な傾向は認められない。アスパラガス栽培は外国人労働者によって下支えされていることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)： Ghanaian and Ethiopian who live in the Netherlands had been hired as a harvesting worker of white asparagus. Since around 1995, workers from foreign countries were gradually accepted as a seasonal worker.

Currently all 15 farmers and an agricultural corporation which yield white asparagus employ foreign workers. Countries of origin of them are Greece, Poland, Latvia, Romania, Bulgaria and so on. Generally speaking, Greece is an older seasonal worker, while Romania and Bulgaria are new one. White asparagus cultivation in the Netherlands is obviously supported by foreign workers.

研究分野：人文地理学

キーワード：外国人労働力 季節労働者 ホワイト・アスパラガス リンブルフ州 オランダ

1. 研究開始当初の背景

EU 域内のヒトの移動は、シェンゲン協定の発効により 27 加盟国の間で自由になった。しかし、新規加盟国は一定の経済条件を満たしていないことから個人の自由意思による移動は制限されている。それでも、経済的に恵まれた加盟国を目指す人は絶えず、経済的発展の著しい EU の中軸国であるイギリス、オランダ、ベルギー、フランス北部、スイス、イタリア北部などを目指す新規加盟国の人々は後を絶たない。

前述の中軸国は第二次世界大戦後に、当時は一時的労働者として旧植民地や海外領土、あるいはモロッコ、トルコをはじめとする近隣諸国からの移民を受け入れた。当初、ヨーロッパ諸国は「移民は移民であり、あくまでも母国へ帰還する」と想定していた。しかしながら、労働者たちは帰還せずに域内定住を図ったため、ここ数十年で各国の人口構成は大きく変化している。こうした状況を受けて、受け入れ諸国では移民との軋轢が増している。軋轢の原因はさまざまであるが、移民の高失業率、ひいては高社会保障費受給率も一因である。こうした状況にもかかわらず、一部の農業地域では農繁期の労働力不足から、短期ビザ発行による新規加盟国からの人々を季節労働者として雇用している。

EU 統合による地域のダイナミックな変容に関する研究は蓄積されつつあるものの、労働力移動に関しては、東西ヨーロッパの境界線付近における移動に焦点が当てられており、その他の労働力移動に関しては看過されているきらいがある。農繁期における季節労働者に関する研究は、アメリカで多く蓄積されている。近年における成果としては、アメリカ合衆国のグレートプレーンズにおける畜産業の発達と東南アジア系住民の雇用と社会について明らかにした研究や、建前上は季節労働者としつつも現実には通年労働者となっているカナダのメキシコ系労働者に対する権利の付与について論じた研究を挙げることができる。

EU における労働者に関する研究は、いまだ旧植民地あるいは海外領土からの移民や第二次世界大戦後に受け入れた移民労働者に関する議論が集中している。これらの移民の大多数が都市域に居住することから、おのずと研究対象地域も都市部に限定されてきた。

2. 研究の目的

申請者はこれまでオランダにおけるムスリム系住民、すなわち第二次世界大戦後に来蘭した移民労働者を研究対象としてきた。これらの人々は、戦後の労働力不足を補うために政府間雇用協定にもとづいて来蘭した者が多数を占める。彼らは繊維産業や食品加工業などのいわゆる製造業部門において安価な労働力を提供し、オランダの経済を下支えた。承知の通り、製造工場は都市縁辺に立地することから、移民労働者の居住域もおのずと都市内部に出現した。

EU 統合による地域のダイナミックな変容に関する研究は蓄積されつつあるものの、労働力移動に関しては、東西ヨーロッパの境界線付近における移動に焦点が当てられており、その他の労働力移動に関しては看過されているきらいがある。

EU の中でも低平な大地ゆえに農業の大規模化・集約化が高度に進展するオランダは、農繁期に東欧諸国から季節労働者を雇用している。季節労働者は季節労働者専門人材派遣会社を通して当該地域に提供されている。季節労働者専門人材派遣会社は労働者のリクルートばかりでなく、短期ビザの発給にも関与している。こうした組織的な季節労働者の需給に関する研究は、管見の限り見当たらない。

ヨーロッパ諸国ではホワイト・アスパラガスは春の訪れを告げる季節野菜として好まれ、なかでもベルギー、オランダ南部、ドイツ南東部を中心として一大産地が形成されている。栽培農家は短い収穫時期に合わせて一時的に労働力不足に陥る。近年、この労働力不足を補う方法としてオランダ南部では東欧諸国の人々を季節労働者として受け入れている。本研究はホワイト・アスパラガス生産地域の農業の特徴を描きだすと同時に、当該地域における季節労働者の実態を明らかにする。また、農繁期限定労働者を受け入れたことによって生じた課題についても考察する。

3. 研究の方法

本研究は EU におけるホワイト・アスパラガス生産地域を FAOSTAT あるいは EUROSTAT などの統計により明らかにしたうえで、オランダ南部を中心とした一大産地における季節労働者受け入れの概要を捉える。オランダ南部のリンブルフ州においては現地調査を実施する。現地調査においては、農業部門にお

ける季節労働者受け入れ制度についても留意し、関係機関での資料収集および聞き取り調査を実施する。アスパラガス生産企業・農家に対しては、季節労働者の受け入れ実態および受け入れにともなう課題について聞き取り調査を行う。

4. 研究成果

調査地域はリンブルフ州北部地域であり、マース川の左岸に位置する。この地域は耕作地に占めるアスパラガスの作付面積が2-4%となっており、オランダにおけるホワイト・アスパラガスの一大産地となっている。CBS (Het Centraal Bureau voor de Statistiek) によれば、2000年のアスパラガス生産農家・法人は1370戸を数え、その総作付面積は2084haであることから、一戸当たりの平均作付面積は1.52haであった。2005年には生産農家・法人は1006戸で、総作付面積は2334haであったことから、一戸当たりの平均作付面積は2.32haであった。さらに2010年になると、生産農家・法人は745戸にまで減少するが、総作付面積は2695haにまで増加した。その結果、一戸当たりの平均作付面積は3.62haにはまでなり、2000年の倍以上の数値となった。以上のように、アスパラガス生産農家・法人は減少の一途をたどっているものの、一戸当たり生産規模が拡大することによって、全体としてはむしろ生産量増加の方法にあるといえる。

聞き取り調査によれば、研究対象地域における農家・法人15戸のうちホワイト・アスパラガス生産を専業とする者は3戸にとどまっている。12の農家は、以前から行ってきた酪農とホワイト・アスパラガス栽培、あるいは果樹とホワイト・アスパラガス栽培を組み合わせた複合経営を行っている。研究対象地域で最も大規模な栽培面積を有する農場Aは100haの圃場に加えて、15haの試験圃場を有している。次に大きな農場Bは30haの圃場を、一番小さな農場Oは6haとその規模にはかなりの差があり、平均すると16haの圃場でアスパラガスを栽培していることになる。概して、アスパラガスと果実を栽培している農家はアスパラガス栽培面積が小さいことが特徴である。なお、果実はリンゴである。一般的な農場はアスパラガス栽培に加えて、乳牛の飼育を行っているケースが多かった。アスパラガスと乳牛にくわえて野菜を栽培している農場もみられ、野菜はイチゴのほかルバーブを栽培している。これらの農場はBeringe、Grashoek、Helden、Maasbree、Panningen地区に散在している。

いずれにしてもホワイト・アスパラガスの収穫・出荷には労働力が必要であり、近年では新規加盟国の人々を季節労働者として雇用している。ホワイト・アスパラガスの収穫はオランダに居を有するガーナ人、エチオピア人などを雇用して行っていたが、20年ほど前の1995年ころから徐々に外国人労働者を季節労働者として受け入れ始めた。現在では聞き取り調査を行った15戸のホワイト・アスパラガス生産農家・農業法人すべてが、外国人労働者を雇用している。外国人労働者はキャラバンと呼ばれるキャンピングカーや農家・農業法人が用意した簡易宿泊施設に寝泊まりし、労働に従事している。外国人労働者の出身国は、ギリシャ、ポーランド、ラトビア、ルーマニア、ブルガリア、ポルトガルなど実に多様である。概ね、ギリシャが古参の季節労働者であることに加え、ルーマニアとブルガリアが新勢力であること以外に顕著な傾向は認められない。

この地域で最も大きい、すなわちオランダで最大のホワイト・アスパラガス生産者であろう農業法人の場合、2015年の季節労働者は233名である。このうち8名がスーパーバイザーと呼ばれる雇用主と労働者をつなぐパイプ役である。平均すると1人のスーパーバイザーは26人の一般雇用者の統括をしており、一般雇用者がよく働くとスーパーバイザーにおおよそ500ユーロのボーナスが入る仕組みになっている。一般の季節労働者は親類や友人の紹介でこのスーパーバイザーを通して雇用主に紹介されるほか、雇用主の要求を伝えられる。ほとんどの季節労働者は3か月以内の労働を経て母国に戻っている。労働契約期間は個々が法人と交渉し決めており、本国での仕事に支障がない限りで働いている。本研究では、オランダのアスパラガス栽培は年々その規模を拡大しているが、規模拡大を下支えしているのが外国人労働者であり、彼らなしには経営が成り立たないと言っても過言ではない実態が明らかになった。また、経営者と雇用者はウィン・ウィンの関係を築いていることから、今後もアスパラガス農家・法人の規模拡大と外国人雇用は促進していくものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 大島 規江 (OSHIMA Norie)
茨城大学・教育学部・准教授
研究者番号：90420661

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：